

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	Ⅰ期食道癌に対する炭素線治療の治療堅牢性に関する研究
	研究目的	<p>粒子線の一種である炭素線は Bragg peak を有し、光子線に比べ腫瘍への線量集中性が高い。また高 LET 放射線に分類されることから、陽子線など他の粒子線と比較して高い治療効果を得ることができる。炭素線治療において良好な治療効果を得るためには、正常臓器 (Organ At Risk ; OAR) への線量を出来るだけ抑えつつ腫瘍へ高線量を付与する必要がある。炭素線治療は多くの利点が挙げられる反面、飛程変化による腫瘍線量の低下や OAR への高線量付与の可能性が問題点として挙げられる。飛程変化による意図しない高線量の付与は、腫瘍に対する治療効果の低下だけではなく、OAR の重篤な有害事象に繋がりがねない。そのため、飛程に関わる様々な変化要因に対して堅牢な治療計画の立案が必要不可欠である。</p> <p>本研究ではⅠ期食道癌に対する炭素線治療を対象として、飛程に関する主な変化要因を総合的に評価する。そして、より堅牢な治療計画の立案手法を提案することを目的とする。</p>
	研究対象者	2020年9月～2024年3月に当センターにて重粒子線治療を受けた食道癌の患者さん
	研究期間	西暦 2021年 11月 22日 ～ 西暦 2024年 3月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (治療計画データ、治療計画用 CT データ、X 線透視画像) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者 菅 満喜人	
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	医療技術部 放射線治療技術科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし